

# 経産クラスで全道一の栄冠

今野昭男さん（豊丘） 出陳「かつひめ号」が道共進会で

第二十六回北海道肉用牛共進会が九月九日、十勝管内音更町の十勝農協連家畜共進会場で行われ、今野昭男さん（豊丘）が出陳した「かつひめ号」が経産クラス第六部門で一等一席に輝くとともに、経産クラスの最高位賞に輝きました。

本町の四戸の農家から、日ごろ手塩にかけて育てた、胆振家畜共進会で成績上位の六頭が出陳。かつひめ号をはじめ、小納谷武雄さん（幌内）出陳の「やすし号」も経産クラス第五部門で一等一席を獲得するなどいずれの牛も好成绩を収めていました。昨年度行われた道総合畜産共進会でも、本町から出陳した肉用牛（牛三頭群）が全部門の頂点である肉用牛部門最高位賞を受賞しており、二年連続の快挙に町やJAをはじめ関係者は喜びに包まれています。



喜びに満ちた関係者の皆さん（上）と今野さんとかつひめ号

## 日ハムキャラクター B・B 京町保育園に登場

9月5日、北海道日本ハムファイターズのマスコット「B・B」（プリスキー・ザ・ベアー）が京町保育園を訪ね、一緒に歌や体操、野球体験などで園児たちは楽しいひとときを過ごしました。この訪問は、B・Bとの触れ合いを通してファイターズへの親しみを感じてもらうとともに、体験コーナーを設け野球の面白さを広めるため、同球団が札幌市内や札幌ドーム近郊の保育園や幼稚園を訪れているもの。園児たちは、ピアノを上手に弾いたり、身軽に側転するB・Bに大喜びしていました。

ティーボールのお手本を見せるB・B



ATVと軽トラックレースの様子



## 浜厚真地区レース場でATV疾走 軽トラックレースも

9月9日、2007北海道ATVチャンピオンレース第7戦（北海道ATV協会主催）が浜厚真オフロードパークで行われ、クラス別で行われた競技に道内各地から約70台の四輪バーギーが参加し、専用サーキットを走り抜けました。

競技では、200ノーマルでエントリーした木戸和政さん（上厚真）が優勝しました。また、昼休みには、本町の麻生敏和さん（本町）と山口善紀さん（宇隆）が企画した「全日本軽トラックレース」も開かれ、全国初の催しに観客から声援と拍手が贈られていました。

# まちの話題

## 厚真市街にズシリと響く 120人の和太鼓の共演



厚真市街地を会場に行われたフェスティバルの様子

あつま和太鼓フェスティバル（同実行委員会主催・畑嶋安雄委員長）が九月十五日厚真市街地で行われ、町内外九団体による和太鼓の響きとYOSAKOIの華麗な舞が披露されました。このフェスは、生まれ変わった厚真市街地を舞台に、太鼓演奏を通してまちづくりに寄与することを目的に企画されたもので、塊打太鼓、あつま童心太鼓と交流のある太鼓チームが札幌市、江別市など六市町から六団体、YOSAKOIチームが苫小牧市から一団体が厚真市街地に集結。あいにくの小雨の中でも、各団体が繰り広げる迫力ある踊りと演奏に沿道に集まった観客から大きな拍手が贈られています。塊打太鼓の会長で同フェス副実行委員長の森田正樹さんは「この催しを開催するにあたり、たくさんの方々にお世話になった」と感謝していました。

## 富小・軽小児童、流木を燃料に土偶焼き

富野、軽舞小学校の5・6年生13人が9月27日、浜厚真海岸で町職員の乾学芸員の指導で板状土偶焼きに取り組みました。

土偶は、7月に行われた埋蔵文化財発掘体験の時に作ったもの。かまどをつくり、海岸から集めた流木を燃料に、約1時間野焼き。

富野小学校6年生の森山裕花さんは「割れないように厚くつくったけど割れちゃいました。上手に作った縄文人はスゴイ」と感想を話していました。



## 厚真川河川敷で秋桜満開、笑顔も満開

コスモス

6月上旬に町民ボランティアによりコスモスやヒマワリなどの種がまかれた、厚真川左岸河川敷（新町地区）で、9月上旬ごろから花が一斉に咲き出し、行き交う人たちの目を楽しませました。

この付近は、京町保育園児の散歩コースにもなっていて、左岸一面に広がる色とりどりの花のジュウタンの中を、園児たちは気持ちよさそうに散歩していました。



## 動物の痛みを見つけてあげる ことが獣医師の仕事

上厚真小学校（横山守校長）の一年生十五人が九月六日、胆振東共済組合の獣医師、中川昌哉さん（写真右上）による「どうぶつのおいしゃさん」をテーマに道徳の授業を受けました。

中川先生は「動物は人の言葉を話せないの、痛いところや困っていることが伝えられない。そこを見極めてあげることが獣医師の仕事です」と児童たちに話していました。

## 実りの秋を満喫 遊楽農園収穫感謝祭

九月二日、町が行っている市民農園「あつま遊楽農園」の収穫感謝祭が宇隆地区にある同農園で行われました。所管する役場佐々木産業経済課長が「皆さんが植えた野菜は、順調に成長し実りの秋を迎えました。遊楽農園は、交流の場でもあるので有意義な一日を」とあいさつ。参加者は、カボチャやとうきび、ジャガイモなどを共同の畑から収穫し、採れたてを茹で食べていました。



# まちの話題 plus



移住体験中の金澤、笹山、柘田さん夫妻(左から)

## 自然がいっぱいで気持ちいいですね

町が本年度から行っている短期移住体験「厚真町ちょっと暮らし」と、個人でルーラルビレッジ内の空き住宅を借りて短期移住中のあわせて3組のご夫妻が9月22日、こぶしの湯あつまでそば打ち体験を行いました。和歌山県和歌山市から来た金澤夫妻は「自然がいっぱいで気持ちいいですね。11月末まで滞在予定です」、愛知県岡崎市からみえた柘田夫妻は「北海道が発信しているメルマガを見て一番新しい情報が厚真だったので来てみました」、また、そば打ち初体験の大阪府堺市の笹山夫妻は「切るのがむずかしいですね。これを機会にそば打ちの道具を買うかも」と笑顔で話していました。

## 苫小牧信用金庫から今年も寄付

来年創業60周年を迎える、苫小牧信用金庫(窪田護理理事長)から、9月11日、金沢俊一専務理事、千葉憲万専務理事、小野寺信良厚真支店長などが役場町長室を訪れ、藤原町長に50万円の寄付を贈呈していただきました。同信用金庫の60周年記念事業の一環として、指定金融機関になっている1市5町の自治体に対して昨年からの贈呈していただいているもので、22年度までの5年間にわたって寄付を受ける予定となっています。

厚真町では、この寄付金を地域振興基金に積み立て、社会福祉の向上や生活環境の整備などのまちづくりに活用させていただきます。



金沢専務理事から藤原町長に目録が渡される



のこぎりで木材を切る作業風景を披露

## 上手になったしょ！活動の成果見て

9月21日、上厚真小学校(横山守校長)の4年生から6年生までの38人によるふれあいタイム活動発表会が行われ、地域の方々が先生となり春から教わったクラブ活動の成果を発表しました。

クラブは、木工、着付け、英語、太鼓、軽スポーツの5分野で、5月から計7回にわたって児童たちは、地域の先生と交流を深めながら楽しく学んできました。8回目となる発表会では、地域の先生や保護者などが見守る中で、教わったことを振り返りながらステージ発表を行い、たくさん拍手が贈られていました。

## 交通事故のない町を願い行進

町交通安全協会(池川義厚会長)などが9月27日、厚真市街地で交通安全歩行パレードと町内一円にわたり車両パレードを行いました。

開会式で池川会長が「道内の交通事故死が増えている。町内で交通事故が起こらないことを願いながら行進してほしい」とあいさつ。中央小学校鼓笛隊、町交通安全協会役員、交通安全指導員など計100人が厚真市街地を練り歩きました。歩行パレードに引き続いて、交通安全ののぼりをしたたてた車両など22台が連なり、町内全域を回り交通事故死撲滅、交通安全を呼びかけていました。



厚真市街地を行進する中央小鼓笛隊



## 雨中のPG大会で新町自治会が優勝

9月7日、新町パークゴルフ場で、教育委員会が主催する平成19年度秋季自治会対抗パークゴルフ大会がナイターで行われ、13自治会から17チーム80人が参加しました。

当日は、あいくにの雨でしたが、選手たちはカップやウィンドブレーカーを着用し、普段と変わらない軽快な動きをみせ、雨で重くなっている芝を克服していました。

優勝／新町A(幅田、岩田、中、島村、中島)、2位／本郷B(矢部勲、矢部勝、矢部雅、金本、清水)、3位／南町(都築紀昭、都築紀勝、都築静、小路)【敬称略】

## 火遊びしません！幼年消防クラブ結成

9月11日、京町保育園で「京町保育園幼年消防クラブ」が大西武雄厚真消防団長が立ち合いのもと結成されました。子どものころから防火・防災への意識向上を図る目的で結成されたもので、本町では宮の森保育園に続いて2つ目のクラブ。

大西団長が「火事が起ると、大切な命や大事なものがなくなるので、火には気をつけて」と子どもたちにあいさつ。消防から贈呈された法被<sup>ほっぴ</sup>を身にまとった年長組13人の園児が「ぼくたち、わたしたちは、絶対に火遊びをしません」と大きな声で誓いの言葉を宣言していました。



大西団長(中央)と京町保育園の園児たち



交通安全を呼びかけイモを手渡す軽舞小児童

## 手作りイモを配り交通安全を呼びかけ

軽舞小学校(鳥井隆校長)全児童17人が9月26日、豊かな丘公園で自分たちで育てたジャガイモをドライバーに配り、交通安全キャンペーンを行いました。このキャンペーンは同校が毎年取り組んでいるもので、今年のジャガイモは出来がよく形も大ぶり。

「シートベルトを締めて、交通安全をお願いします。僕たちが育てたジャガイモです。おいしく食べてください」と声をかけ、手塩にかけて育てたジャガイモと児童一人ひとりがしたための交通安全のメッセージカードをドライバーに手渡していました。

## 皆さんの血と汗の結晶が今の厚真町

9月17日、平成19年度厚真町敬老会が総合福祉センターで行われ約200人のお年寄りが出席し、長寿のお祝いを受けていました。

今年度対象となる方は、100歳以上の方が6人、90歳以上の方が77人、米寿(88歳)の方が35人、一般敬老(昭和3年12月31日以前生まれ)の方が425人の計543人。藤原町長が「皆さんの血と汗をにじませた苦勞と努力によって、厚真発展の基礎を築いていただき、今、大きな力となっている。本町の父と母がいつまでも元気で幸せであってほしい」と参列した方々に感謝の言葉をかけていました。



星影のワルツを合唱する参列した方々



サツマイモ畑で中川さんと巨大サツマイモ

## 腕より太いサツマイモにビックリ！

中川登さん(朝日)の畑で、重さ2,400グラムのサツマイモが採れ、中川さん本人もその出来栄に驚いています。

昨年から自家用のサツマイモの栽培を始めた中川さん。「栽培方法も我流でしたが去年もそこそこ採れたので、今年も植えてみました。鹿児島出身の人につくり方を聞いてみたりしたのですが、まさかこんなに大きなものが採れるとは」と話し、奥さんの洋子さんは「家族でどんな味か秋祭りの時に天ぷらで食べてみたんですけど、甘くて味もよかったですね」と笑顔で話していました。